

編集方針

住友化学は、2017年度より従来の「アニュアルレポート」と「CSRレポート」の位置づけを整理し、統合報告書「住友化学レポート」へと再編しています。株主・投資家をはじめとする幅広いステークホルダーの皆さまに向け、当社が持続的に成長していく姿をわかりやすくお伝えすることを目指し、事業の強みや戦略、業績報告に加え、コーポレート・ガバナンス体制や環境・社会への取り組みなど、非財務情報と財務情報を総合的にまとめています。

「住友化学レポート2019」は、表紙に使用している、住友化学の飛行船に乗り込むイメージでスタートします。新中期経営計画の始まりである本年は、取締役会議長と社外取締役の対談やCFOメッセージ、ESG戦略などを新だに掲載し、より一層内容を充実させました。この住友化学レポートが、ステークホルダーの皆さまとの懸け橋となり、グループ丸となって新たな価値を創造していく姿をお伝えできれば幸いです。



経済産業省が策定した「価値協創ガイダンス」は、企業と投資家を繋ぐ「共通言語」であり、企業が投資家に伝えるべき情報を体系的・統合的に整理し、情報開示や投資家との対話の質を高めるための手引きです。本レポートでは、主に「事業部門別情報」(P40～)の部門別価値創造モデルにて本ガイダンスを参考としています。

本資料での財務数値について

住友化学グループは2018年3月期より、従来の日本基準に替えてIFRSを適用しており、前連結会計年度の数値をIFRSに組み替えて比較分析を行っています。しかし、IFRSでの2017年3月期の期首連結財政状態計算書はセグメント別に作成していないため、2017年3月期における、セグメント別の資産収益率と資産回転率は算出していません。

見直しに関する注意事項

本住友化学レポートに記載されている当社の現在の計画、戦略、業績予想などの、既存の事実ではない内容は、将来に関する見通しであり、リスクや不確定要因を含んでいます。実績がこれらの内容と乖離する要因となりうるものとして、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場における当社の製品に対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、厳しい競争市場において当社が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。ただし、要因はこれらに限定されるものではありません。



目次

- 4 ステークホルダーの皆さまへ
- 6 住友化学の理念
- 8 住友化学の100年の歴史
- 10 価値創造フロー



経営戦略

- 12 社長メッセージ
- 18 CFOメッセージ
- 20 2019-2021 中期経営計画
- 24 ESG戦略

ハイライト

- 30 住友化学の1年
- 32 財務・非財務ハイライト

特集

- 36 対談 取締役会議長×社外取締役

40 事業部門別情報

- 42 各事業部門の状況
- 44 石油化学
- 48 エネルギー・機能材料
- 52 情報電子化学
- 56 健康・農業関連事業
- 60 医薬品

64 価値創造の基盤

- 66 技術・研究開発
- 68 デジタル革新
- 70 気候変動対応
- 72 人権
- 74 人材戦略
- 76 環境保全／
プロダクト stewardship・
製品安全・品質保証／
労働安全衛生・保安防災
- 77 株主・投資家との対話

コーポレート・ガバナンス

- 78 役員一覧
- 81 コーポレート・ガバナンス
- 90 コンプライアンス
- 91 腐敗防止

92 コーポレートデータ

- 94 財務レビュー
- 100 連結財務諸表
- 106 社外からの評価
- 107 サステナビリティ
データブック2019の目次紹介
- 108 会社・投資家情報



住友化学の3つのレポート

